

## 1080 | 絵画表現Ⅰ

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、永井研治教授、袴田京太郎教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、金子善明講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、佐々木徹講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、松村繁講師、山本明比古講師、吉川民仁講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

## 授業の概要と目標

ここでは、造形要素としての線と面の働きをテーマとして学ぶ。どのようなモチーフであっても、それをキャンバスや紙の上に表現するには、線や面などの造形要素として捉えることが重要になってくる。モチーフを漫然と見たまま描くのではなく、画面を構成する要素として捉えた場合、実際のモチーフにはない線や面が意識されてくる。そういった画面の自由な空間構築を通して単なる再現的な表現ではない、新たな表現の展開を通信授業と面接授業を通して模索する。

## 課題の概要

## ○通信授業課題「線と面」

- 1-1 身の周りにあるもので、線的、面的要素として捉えやすい無機的なものを中心にモチーフを組み立て、「線」による構成を主としてクロッキーする。
- 1-2 「1-1」と同じモチーフを「面」による構成を主としてクロッキーする。
- 1-3 「1-1」と同じモチーフから「線」と「面」による空間構成を意識してデッサンする。

## ○面接授業課題「造形要素としての面と線の働き」

- 1-1 無機的なものを中心に組み合わせたモチーフを設置し、造形的要素としての「線」や「面」による空間構成を意識して、デッサンする。B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆または木炭。

## 授業計画

## [通信授業]

学習指導書『絵画表現Ⅰ・Ⅱ 平成 29 年度』の「絵画表現Ⅰ」を参照。  
教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」等を参照。  
教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

## [面接授業]

- 第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（デッサン）
- 第 2 日 午前：制作 午後：制作
- 第 3 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

## 成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 3 年次

[履修条件] 「絵画Ⅰ・Ⅱ」または「日本画Ⅰ・Ⅱ」または「版画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（油絵学科 3 年次編入学生を除く）。

[備考] 油絵学科各コース 3 年次必修科目。

## 教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『絵画表現Ⅰ・Ⅱ 平成 29 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）